

点の召喚

全てが相対的であることは言うまでもない。私たちは自分の位置も、色合いも決定出来ず、浮舟のような乗り物に揺籃されながら生きて行く。

しかし時は確実に、容赦なく一日を刻み、暮らしは、明らかな言語を用いて営まれる。

これが数十年続き、人はついに終わっていただけだ、と思っている。

小さな点が私の手からスクイズされ、画面に落とされて私の作品は始動を始める。

今まで多くの小さな点をスクイズしてきた。今からもそうだろう。

小さな一つの点は多くの点を召喚し、ついには群れを為し、集合し、意思を持つかのように見える。一つの小さな点が、常に群れと集合と呼応し、呼びかけ、その孤立と、

しかし相関を確かめようとする。私の場合、先ずは小さな点から始まるのである。

私は自らの個を見つめ、それを見逃さないために小さな点にすべてを仮託して、大きな点の群れを召喚してきた。

その表現は、私が生きていて、最も自然で、当たり前のレスポンスを返してくれるからだろう。稀に文字も書き入れた。小さな文字は距離によって図柄にも見え、時に確かに意味のある言語として判読できる場合もある。

人にもよるし、感情に、距離にもよる。すべては相対的なのは全く言うまでもないことなのだ。

だから私の作品はすべての人の感情に親しいし、人の胸に向かって緩やかな侵入を許されているのではないか。また点は個であると同時に、私たちから離れることの出来ぬ

「時」の経過をも表し、同時に私の生きる鼓動でもある。美しいものはこうして多義的で相反するものだろうと思っている。

市村しげの

BASE GALLERY
103-0025 東京都中央区日本橋
茅場町1-1-6 小浦第一ビル1F
tel : 03 5623 6655 fax : 03 5623 6656
info@basegallery.com
www.basegallery.com